

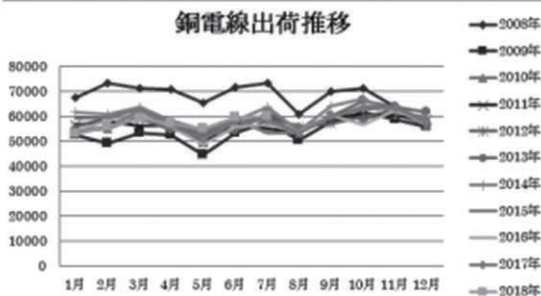
## 8月の銅の概況及び9月の見通し (3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



## 日本電線工業会発表の出荷速報(推定)

銅電線出荷量は、前年比+4.7%の5万9,800 tであった。



出典 日本電線工業会

## ■国内概況まとめ

## 【自動車】

6月の四輪車生産台数は82万2,272台で、前年同月比-4.4%となり4カ月ぶり減少。

輸出は38万370台で前年同月比-7.4%。

## 【販売】

8月の国内自動車販売台数(軽は除く)は23万3,358台で前年比-0.2%。2カ月ぶり減少。

内乗用車+2.1%、貨物-10.7%、バス-45.4%。

## 【住宅】

・平成30年7月の住宅着工戸数は82,615戸で、前年同月比で0.7%減となった。また、季節調整済年率換算値では95.8万戸(前月比4.7%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で2か月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家は増、貸家、分譲住宅は減となった。

## 【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比-0.3%の7万606 t。2か月連続減少。

内需5万8,301 t、-0.8%、2か月連続マイナス。

輸出1万2,305 t、+1.8%、2か月ぶりプラス。

銅条2万3,634 t、-0.4%、2か月連続マイナス。

黄銅棒1万5,600 t、-3.6%、3か月連続マイナス。

## 【電線】

前年比+4.7%の5万9,800 t。うち国内は+4.2%、輸出が+25.9%。通信-5.8%、電力+11.6%、電気機械+5.5%、自動車-0.3%、建設電販+3.5%、その他内需+6.2%。

## 【輸出】

電気銅輸出が+11%の4万6,311 t。銅スクラップは-18.6%の2万5,469 t。

## 【輸入】

電気銅が+305%の3,448 t。スクラップは+33.5%の1万2,808 t。

## 【見通し】

・自動車は生産が-4.4%。国内販売台数が前年比-0.2%。生産が4カ月ぶりマイナス、販売も2カ月振りマイナス。生産販売共にマイナス。これが続くかどうか今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で-0.7%と2か月連続マイナス。大幅減は治まったが今後減少が続くのか、今後の動向に注目。

・伸銅品は2か月連続減少、前年比-0.3%。需要の多い銅条2か月連続マイナス、黄銅棒は3か月連続マイナス、輸出2ヵ月ぶりプラス。微減ではあるが今後マイナスが続くか注目。

・電線は前年比+4.7%の5万9,800 t。輸出が+25.9%。需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ-0.3%、+3.5%。

建設電販が4か月連続プラスに!

・銅輸出は地金が円安で増加。スクラップは内需用途から減少。

・銅輸入は銅価格の下落を受けて大幅増加。内需用途からスクラップは増加。

## 【スクラップ景況予想】

流通在庫は月初の建値75万から一時70万まで下落し塩漬け状態。需要面に関しては足元の生産状況が比較的良好。秋冬の需要に向けて購入意欲は高いが品費の良いスクラップは高値で購入したもので間屋の出し渋りが考えられ需給は引き締まるのではないかと。

## 【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争と米FRBの利上げ動向に左右される。

米中貿易戦争に関してはトランプ米大統領が7日、2,670億ドル分の中国の輸入品に対し追加関税を課す可能性を示すなど、米中の貿易摩擦が激化する。

報復合戦は続くもののトランプ政権の貿易制裁関税案についての一般からの意見募集が終了。この内容によっては歩み寄り可能性あり。

FRBの利上げに関しては8月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数は前月比20.1万人増で事前予想の19万人を上回り、物価動向を占ううえで注目される平均時給の伸び率が拡大、米利上げが続くとの見方が強まったことから利上げの可能性あり。

これらを踏まえた9月の銅価格は、米中貿易戦争で緩和に向かう何かしらの話し合いや政策が出て、次回のFOMCで利上げがされなかった場合、6,100ドル付近。

両条件が揃わなかった場合、現状からもう一段安の5,800ドル付近まで下落するとの予想。

ドル円値は、110円~112円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては、680-730円程度と予測している。

【8月の銅の概況及び9月の見通し】終了